

専門サービス部会長報告

1. 会議名：第2回部会総会
2. 日 時：2022年11月18日（金）10:30～12:00
3. 場 所：秋田商工会議所 7階ホール80
4. 出席者：部会員等18名
5. 懇 談：講 演「デジタルツール活用事例セミナー」
ゲスト 株式会社リクルート
Airプロダクト Division 山田 京 氏
6. 協 議：任期満了に伴う正副部会長の選任について
杉本公彦氏（株式会社RB advance／代表取締役）
を部会長に再任したほか、12名の副部会長を選任した。

懇談 デジタルツール活用セミナー

①DX化による売上UP事例

■DXデジタルトランスフォーメーションとは
プロセスを電子化する、データをとって使う、
人間をAIにおきかえることではない。



「デジタル技術を使って」「つながり方を変えて」
「本当にやりたかったことをやる」こと。経営戦略とデジタル戦略は一体で、ユーザー視点で新しい価値を提供するもので、やりたかったことをやって顧客価値を上げ、儲けるための手段である。



■中小企業が抱えるDX化への壁

- ①人材の壁→導入する人的余裕がない、ICT知識がある人がいない
- ②金額の壁→導入コストが高い、導入後に使いこなせるか心配

■導入事例：小杉湯（昭和8年創業の老舗銭湯）

2020年4月新型コロナウイルスによる最初の緊急事態宣言発令時以降、客数は4割減少となった。そうしたなか、顧客から「今、混んでいるか」「現金を触りたくない」という要望が増加したことから Air レジ、Air ペイを導入。



導入したことで得られた変化

- ・ 来客数のデータが明確化し、顧客が求める情報を SNS で発信することが可能となり、来店への安心に繋がった。
- ・ キャッシュレスにより利便性が向上し高額品の売り上げが増加した。
- ・ 手作業だったレジ締めが簡略化により余剰時間・余力が生まれた。
- ・ 数字の情報を従業員全員で共有できるようになった。

時間別、曜日別の来客数と傾向が明確になったことで、感覚に頼らない口スの少ない商品発注に繋がったほか、余剰時間ができたことで、新たな物販や取組・サービスの検討、実施が可能となり、来客数増加に繋がった。

②従業員満足度向上と事務作業時間の大幅削減シフト管理サービス活用術

LINE や紙により希望のシフト提出・受領をしている場合、追加や変更のやり取りに要する時間は月平均 15 時間とされている。

Air シフトは、シフト表と一体となったチャット機能により、シフト収集の他、スタッフ管理、勤怠管理、単発アルバイトを募集できる機能を備えている。

導入により、担当者の事務作業が大幅に削減され、他の業務に時間を使えるようになる。



①②どちらも“小さなDX”ではあるが、自社でソフトを新たに開発するには時間もお金もかかるが、今あるツールを導入して、本来したいサービスや業務ができれば、それがDXに繋がる。